

ヒレンジャク、キレンジャク

・・・ 上品な容姿と羽色 ・・・

野鳥にはカラスやスズメのように羽の色が周年殆ど変わらず、雌雄の区別さえもつけがたい種類も少なからず見られます。しかし、多くの雄は綺麗で雌は地味なのが普通である。熱帯地方産の多くは濃厚な色彩を持ち、北方産の鳥類ほど淡色となるのが普通です。

レンジャクの羽色を他の野鳥と比較してみると、国内の鳥類の中でも容姿、羽色ともによく調和している上品な鳥は少ないではなかろうか。全身の主色は薄い灰色に紫色を混ぜた色で一見地味なところもあるが、両翼の一部にキレンジャクでは黄色の、ヒレンジャクでは紅色で縁どられていて、同様に尾羽の先端にはそれぞれ黄と赤の横帯で彩られている。

さらに黒い過眼線が表情を引き締め、頭頂から後頭部に渡る羽毛は伸びて冠羽となっている。



ヒレンジャク、熟した柿の実を美味しそうに食べていた。
尾羽の先端が赤い。

日本には冬季に群れを成して渡来するが、その渡来状況は非常に不規則で、ほとんど観察されない年が続くときもありました。

こうした状況から、野鳥愛好家の仲間から垂涎の的となっている。



ヒレンジャク、雪の上にリンゴを置いたら
食べてくれた。



ヒレンジャク、ムクドリと餌の奪い合い。



キレンジャク、ほとんど食べつくされた
柿の実を眺めていた。



キレンジャク、尾羽の先端と風切り羽の
縁が黄色。